

19. センター牛群におけるクリプトスポリジウム清浄化対策

畜産フィールド科学センター 木田克弥

メールアドレス・kidak@obihiro.ac.jp

研究の概要

【目的】

出生後間もない子牛にクリプトスポリジウム症（下痢）が集団発生したことから、被害拡大を防止すると共に、牛群における浸潤調査と環境衛生対策を中心とした清浄化対策を実施した。

【経過と対策】

2005 年

2 月：出生後 2～3 日齢の乳子牛に血便を伴う（下痢）が頻発した。

3 月 8 日：哺育牛の検査により 15 頭中 13 頭からクリプトスポリジウム（Cr）オーシストが検出され、濃厚感染していることが判明した。

3 月 11 日：12 カ月齢までの育成牛（14 頭）の検査により 3 頭が陽性で、11 カ月齢の個体でも保菌が確認された。同時に、飼育環境からも検出された。

そこで、感染の拡大を防ぐために、以下の対策を実行した。

1. 子牛の飼養管理に際しては、ゴム手袋を着用する
2. オルソ剤による長靴の消毒する
3. 伝播を防ぐ作業動線を考慮する（子牛の収容領域には、子牛の管理作業員以外は近づかないようにする）
4. 子牛飼育舎の石灰乳塗布と乾燥を徹底する
5. 哺乳舎を一旦オールアウトして徹底消毒するために、新たな出生子牛はカーフペンでの別飼育を行う

6 月 1 日：哺乳舎のオールアウトが完了した

6 月 2 日：特管内カーフペンで飼育中の 4 頭、糞便検査により、全頭、Cr 陰性確認

6. 引き続き、出生子牛は、出生後第 3 日目の糞を検査して下痢がないことおよび Cr 陰性を確認した後、哺乳（ロボット）舎に移す
7. 育成牛および成牛における Cr 浸潤調査として、センター飼育牛全頭を血液検査（抗体価測定）して、浸潤状況を確認する

11 月：再度の抗体検査の結果、6 月に陽性であった牛 14 頭のうち 12 頭で抗体価が低下した（陰性）。さらに、4 月以降に生まれた 16 頭では 1 頭を除き全て陰性となった。

このことから、防疫の取り組み（踏み込み消毒槽や哺乳子牛の衛生管理）が奏功したものと判断された。

なお、本調査は、18 年度も継続中である。